

2019年度（令和元年度）常磐大学教員免許状更新講習【必修領域】授業概要

| 11月16日(土) 【必修領域】 | | |
|------------------|------|---|
| 時間 | 担当者 | 内容 |
| 9:00-10:30 | 大高 泉 | 国の教育政策や世界の教育の動向 修了試験①（10:20-10:30） |
| 10:45-12:15 | 小島 睦 | 教員としての子ども観、教育観等についての省察 修了試験②（12:05-12:15） |
| 12:15-13:15 | | 昼食休憩 |
| 13:15-14:45 | 島田茂樹 | 子どもの発達に関する脳科学・心理学の知見と特別支援教育 修了試験③（14:35-14:45） |
| 15:00-16:30 | 青山晴美 | 居場所づくりを意識した集団形成とカウンセリングマインド 修了試験④（16:20-16:30） |

各授業の概要

国の教育政策や世界の教育の動向 [担当：大高 泉]

コンピテンシー・21世紀型スキル・リテラシーなど、「新しい能力」の育成を志向する世界の教育動向と、その動向を踏まえつつ日本の教育課題をうけて告示された新学習指導要領にみる今後の日本の教育政策について、主要な点を中心に講義する。

教員としての子ども観、教育観等についての省察 [担当：小島 睦]

これからの社会を創り出していく子どもたちに必要となる資質能力はどのようなことか、また、そのために教員にはどのような指導が求められるのかを明らかにし、これからの学校教育を担う教員の資質能力と学校教育の在り方について考察する。

子どもの発達に関する脳科学・心理学の知見と特別支援教育 [担当：島田 直樹]

子どもの発達に関する脳科学と心理学の研究は新たな知見を生み出している。思考、判断、注意、自己制御などヒトとしてのさまざまな機能は、脳の働きと関係が深い。発達障害のある人の特性も脳の働きの理解が参考になる。そして特別なニーズを持つ子どもの行動特徴を理解し、通常の学級における支援方法について学ぶ。

居場所づくりを意識した集団形成とカウンセリングマインド [担当：青山 晴美]

現代社会の中で、児童虐待やいじめ等、子ども達を取り巻くシビアな環境を改善する上で、学校の担う役割が増加している。それぞれの学級で考え、組織的に取り組めることは何なのか、ロールプレイ等の演習を体験しながら、受講者が一体となって集団形成について、考えて欲しい。

2019年度（令和元年度）常磐大学教員免許状更新講習【選択必修領域】授業概要

| 11月17日(日) 【選択必修領域】 | | |
|--------------------|-------|--|
| 時間 | 担当者 | 内容 |
| 9:00-10:30 | 石崎友規 | 教育要領・学習指導要領改訂の動向 修了試験①（10:20-10:30） |
| 10:45-12:15 | 石崎友規 | 教育要領・学習指導要領改訂と主体的・対話的で深い学び 修了試験②（12:05-12:15） |
| 12:15-13:15 | | 昼食休憩 |
| 13:15-14:45 | 松橋義樹 | 中教審答申に見る学校・家庭・地域の連携及び協働 修了試験③（14:35-14:45） |
| 15:00-16:30 | 石崎ちひろ | 中教審答申に見るチームとしての学校 修了試験④（16:20-16:30） |

各授業の概要

教育要領・学習指導要領改訂の動向 [担当：石崎 友規]

新学習指導要領等の総則を中心に、幼稚園から高等学校までの教育目標・内容・方法を俯瞰し、全ての学習の基盤となる力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、組織的・計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの考え方等について、関連資料を参考にしつつ理解を深める。

教育要領・学習指導要領改訂と主体的・対話的で深い学び [担当：石崎 友規]

新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の考え方や学校段階に応じた具体的な展開について、現代学習論の知見から総合的に考察する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教材・教具の活用について、簡単な演習を通して理解する。

中教審答申に見る学校・家庭・地域の連携及び協働 [担当：松橋 義樹]

学校・家庭・地域の連携及び協働の必要性が強調されて久しいが、その必要性についての当事者間の認識の相違や、連携・協働を具体的に進める上での計画性が欠けているというケースも見られる。この講義では、連携・協働を進める上でのポイントを中教審答申をはじめ各種法令・答申をもとに検討する。

中教審答申に見るチームとしての学校 [担当：石崎 ちひろ]

2015年（平成27年）12月に出された本答申では、「チームとしての学校」が求められる背景、実現のための改善方策等が述べられている。そこで本講義では、まずチームとは何かを考えながら、今後求められる学校の在り方について考える。